



# 大阪YWCA

# 12

# 2023

<http://osaka.ywca.or.jp>

YWCA (Young Women's Christian Association)は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

## 最近の被害者支援

大阪被害者支援アドボカシーセンター事務局長・副代表理事

木村 弘子



阪神淡路大震災の被災者に対する大阪YWCAの支援活動「このころのケアネットワーク」を活動母体に、1996年4月に前身の「大阪被害者相談室」を立ち上げてから今年で28年目を迎えています。2002年にNPO法人格を取得し、現在の名称に変更した後も、大阪YWCAとの密な連携はずっと続いています。

私たちが被害者支援を始めたころは、法律や制度は何もありませんし、被害者の人権は全くないがしろにされていました。その中で、被害者の置かれている厳しい現状を知った私たちのような民間支援団体が率先して被害者支援に取り組んできました。

ようやく2004年に「犯罪

被害者等基本法」が制定され、国や都道府県、市町村をはじめ、多くの機関が被害者支援に携わるようになりました。その中にもあっても、民間被害者支援団体が被害者支援を行う意義は下記のとおりでです。

① 被害直後から長期にわたる、途切れることのない支援の提供が可能。被害者が転居等としても支援が継続できる。公的機関の業務には時間的、空間的限界がある。

② 予算と法律に縛られることなく、自分たちで必要な支援メニューを構築できる。

③ 被害者とも関係機関ともフラットな関係を保つことができ。それでいながら公的機関では難しい、ガチガチの公平性にとらわれない、被害者にとって

本当に必要な仲介や連携が可能である。

④ 職業人ではない一般市民が支援にかかわることで、被害者が失った社会や他人への信頼感、安心感を取り戻してもらう一助となる。

これらに加えて、最近では民間被害者支援団体には、複数の支援機関をつなぐコーディネーターの役割も求められるようになっていきます。

特に大阪府では2019年に制定された「犯罪被害者等支援条例」の中で「支援調整会議」が規定されています。これは被害直後の早期段階から、大阪府、大阪府警、被害者が在住する市町村、大阪被害者支援アドボカシーセンターが「支援調整会議」を持ち、被害者情報と支

援ニーズを共有することで、被害者が適切な支援を受けられるような体制を作るといった仕組みです。(もちろん、被害者の了解は得ています) 会議には必要に応じて社会福祉協議会や医療機関、弁護士会などにも参加してもらいます。当センターはこの会議の「計画作成責任者」というコーディネーターの役割を委託しています。

法律や制度は変わっていきませんが、被害者が一日でも早く元の平穏な生活を取り戻せるように適切な支援を提供するという私たちの支援の目的は変わりません。これを目標に今後も真摯に取り組んでいきたいと思っています。

きむら ひろこ

木村 弘子

2002年

大阪被害者支援アドボカシーセンター支援活動員

2010年

事務局次長(2013年まで)

2013年

事務局長

2017年

副代表理事

# クリスマスメッセージ

## 神が私たちと共におられる

山梨英和学院・山梨英和大学宗教主事  
甲府YWCA賛助会員

### 大久保 絹



「腹を痛める」という言葉があります。宿した子の出産には痛みが伴い、その苦しさを経験するからこそ母になるという自覚も強まるということでしょうか。第二子の出産はこれから頑張らなければという覚悟を持つたことでプレッシャーを感じたり、不安を表現できなかったり、産後は孤立を感じるものでした。シンガポールでの第二子の出産は日本と全く異なった経験でした。人生に数多くあることではない出産は苦しまず楽しむもので、無痛分娩が主流で、産後の痛みの対処も万全。入院中も医療スタッフが常に私の体調を気にかけてくれました。子育ても他者の手を借りることを当然とし、母親がすべてを引き受けなくてもよいという考えが広く社会に浸透していました。この体験は、ジェンダーロールに縛られ、育児に期待される固定概念にとらわれていた自分への気づきともなり、無理せず生きる生き方への変化のきっかけにもなりました。シンガポールでは、産前と産後で女性たちの生活が激変するようなことはなく、産後4か月くらいから職場復帰をし、働き続けることが自然でした。出産や育児でキヤ

リアを諦めたり、苦勞を強いられたりする母親は日本に比べて少ないという印象でした。2023年、日本のジェンダーギャップ指数は146カ国中125位、シンガポールは49位。私が出産や育児で体験した両国の違いがこの数字にも現れていると思います。

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる」(マタイによる福音書1章23節)。出産を経験したことで私にはマリアの経験が身近なものとして迫ってくるようになりました。マリアはベツレヘムという異郷の地で出産しました。それだけでなく、2歳以下の子の皆殺しという入ロデの命令により、周囲に母子の悲痛な泣き声が満ちていたに違いない中、出産後すぐにエジプトへの避難を強いられ、見知らぬ土地での生活が続きます。それにもかかわらず、マリアとヨセフは平安のうちにあったのではないのでしょうか。主の天使の言葉「インマヌエル」が与えられる、「神は我々と共におられる」ということを

確信していたはずだからです。讃美歌「あべツレヘムよ」に「神にはみ栄え、地に平和と」、「共に宿る神、インマヌエルよ」という歌詞があります。私の好きな讃美歌です。異国では戦禍の瓦礫の片隅や難民キャンプのテント中で出産に臨んでいる女性たちがいて、日本でも様々な危機や苦悩に直面している人々がたくさんいます。そうした人たちの存在に目を向け、平和を実現するものとして、「インマヌエル」の神との出会いがより多くの人に訪れることを祈りたいと思います。

「腹を痛める」という言葉があります。宿した子の出産には痛みが伴い、その苦しさを経験するからこそ母になるという自覚も強まるということでしょうか。第二子の出産はこれから頑張らなければという覚悟を持つたことでプレッシャーを感じたり、不安を表現できなかったり、産後は孤立を感じるものでした。シンガポールでの第二子の出産は日本と全く異なった経験でした。人生に数多くあることではない出産は苦しまず楽しむもので、無痛分娩が主流で、産後の痛みの対処も万全。入院中も医療スタッフが常に私の体調を気にかけてくれました。子育ても他者の手を借りることを当然とし、母親がすべてを引き受けなくてもよいという考えが広く社会に浸透していました。この体験は、ジェンダーロールに縛られ、育児に期待される固定概念にとらわれていた自分への気づきともなり、無理せず生きる生き方への変化のきっかけにもなりました。シンガポールでは、産前と産後で女性たちの生活が激変するようなことはなく、産後4か月くらいから職場復帰をし、働き続けることが自然でした。出産や育児でキヤ

リアを諦めたり、苦勞を強いられたりする母親は日本に比べて少ないという印象でした。2023年、日本のジェンダーギャップ指数は146カ国中125位、シンガポールは49位。私が出産や育児で体験した両国の違いがこの数字にも現れていると思います。

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる」(マタイによる福音書1章23節)。出産を経験したことで私にはマリアの経験が身近なものとして迫ってくるようになりました。マリアはベツレヘムという異郷の地で出産しました。それだけでなく、2歳以下の子の皆殺しという入ロデの命令により、周囲に母子の悲痛な泣き声が満ちていたに違いない中、出産後すぐにエジプトへの避難を強いられ、見知らぬ土地での生活が続きます。それにもかかわらず、マリアとヨセフは平安のうちにあったのではないのでしょうか。主の天使の言葉「インマヌエル」が与えられる、「神は我々と共におられる」ということを

確信していたはずだからです。讃美歌「あべツレヘムよ」に「神にはみ栄え、地に平和と」、「共に宿る神、インマヌエルよ」という歌詞があります。私の好きな讃美歌です。異国では戦禍の瓦礫の片隅や難民キャンプのテント中で出産に臨んでいる女性たちがいて、日本でも様々な危機や苦悩に直面している人々がたくさんいます。そうした人たちの存在に目を向け、平和を実現するものとして、「インマヌエル」の神との出会いがより多くの人に訪れることを祈りたいと思います。



ぶどうの木  
それぞれの糸

# 若い女性への自立支援

YWCAでは京都YWCAと福岡YWCAで、若い女性への自立を援助する施設を運営しています。今回は京都YWCA自立援助ホームカルーナをご紹介します。



お部屋の様子

京都YWCA自立援助ホームカルーナができて今年で8年目になりました。私は縁あって3年前からカルーナで働いています。自立援助ホームは、さまざまな事情により親元で暮らすことができない、15歳から20歳までの少女が学校や職場に通いながら自立に向けてのステップを踏み場です。入居者は虐待、親からの経済的搾取、養育者の精神的疾患等、厳しい背景を背負って入所してきます。幼少期を不適切な環境で育つため、規則正しく食事をすることが難しくかったり、入浴が苦手や掃除や洗濯の習慣がなかったりします。ファッションバックで夜眠れない人もいます。そういった入所者が当たり前の生活が送れるように、基本的な生活習慣を身につけることが一番の目的です。基礎学力を身につけることも大きな目標の一つです。



京都YWCAの中庭

中学校に一日も登校できていなかったり、発達の遅れがあるケースもあり、通信制や定時制高校のレポートを、入所者と職員で四苦八苦してやっています。退所後の生活のために貯金をすることも必要です。バイト代から少額でも貯金できるようにと職員は心をくぐりますが、ネット上の買い物で一瞬にして消えてしまうこともあります。自己表現のしかたや人との距離の取り方が分からず入居者間でトラブルが起きることも多々あります。職員は気持ちに寄り添いながら丁寧に解決していきます。そんな安心で安全なカルーナの退所後、一人暮らしを始めると、又厳しい現実が立ちふさがってきます。カルーナの退所者は30名を超えましたが、これからも増え続ける退所者を含め、彼女達が希望を持って歩めるように力を尽くしたいと思っています。

(会員 辻川 さとみ)



## 「暴力の世界を生きる心構え」

公開講座『在日二世である私が私であるために』が10/28(土)に、大阪YWCA本館にて開催され、30名(内、オンライン14名)の参加者が、ソウル/ゴスペルシンガーかつ人権活動家である新井深絵さんのお話に聞き入った。祖父母や両親が経験した過酷な戦中戦後時代から続く、在日としての波瀾な人生について、葛藤を抱えながらも、2つの文化を持つ自分を認め、挫折をゴスペルの力によって救われた事、また高校教師をしていた時に、生徒たちへ向けて作詞作曲したゴスペルによって、生徒達が自分を認め、心を開いてくれた事などを、

穏やかな語りで話してくれた。一方的に相手を貶めるヘイトに対して、新井さんは、「まずは残念に感じます。相館にて開催され、30名(内、手を傷付けることになぜエネオンライン14名)の参加者が、ルギーを使うのか。人生の背景がそうさせるのか。だけど、怒りに怒りで向き合っていたら、いつまでも波は止まらない。自分の見方が変わると悔しい感情が落ちつきません。」という。

世界中で、相手を自分に都合よく非難する風潮が強まっている現在だからこそ、どんな相手でもかけがえのない人生を生きている人間だと思おう心が必要なのだと感じた。

(会員 七条 聡美)

## わたしのイチオシ!

雑誌 『サバイブユートピア』



「湖北のいわゆる"田舎"の土地でたまたま出会った8人のオンナたち。どんな色でも着こなして私は私。このユートピアを生きぬくために琵琶湖のほとりに芽生えたシスターフッドから生まれたZINE。ようこそ、私たちのユートピアへ。」をうたい創刊された雑誌サバイブユートピア。vol.2の特集『嫁』。因習に縛られ、家の犠牲になってきたイメージが強い(特に地方では)ヨメ。でも先人の移住者であるヨメへのリスペクトをこめての特集は必見の価値がある。(会員 小澤 裕子)

## 聖書の言葉

いかに美しいことか  
山々を行き巡り、  
良い知らせを伝える者の足は。  
彼は平和を告げ、  
恵みの良い知らせを告げる。  
(旧約聖書 イザヤ書52章7節)

オフィスの移転・改装 / ショップの新装改装  
株式会社  
**オフィスインテリア**  
国土交通大臣許可(特-30)第24021号  
建築士事務所(法)第6554号

大阪オフィス 〒534-0024 大阪府都島区東野田町 4-1-10 TEL: 06 (6351) 8830 (代) FAX: 06 (6351) 8840 https://office-interior.net	東京オフィス 〒135-0023 東京都江東区平野 3-4-1 藤和ステイコーポ木場公園 101号 TEL: 03 (5875) 8315 FAX: 03 (5875) 8316
---	---

キリスト教葬儀に関する全てを承っております  
キリスト教葬儀専門  
株式会社 **イースター式典社**

☎0120-415-087 (24時間) ✉info@easter-net.co.jp  
営業エリア: 近畿2府4県・福井・三重・鳥取・岡山・徳島・香川  
兵庫県尼崎市杭瀬本町1-2-5 グラシアコート3F TEL 06-6415-6861 FAX 06-6415-6862  
<http://www.easter-net.co.jp>

# 日本語教師汗まみれ



50年以上の歴史をもつ大阪YWCA専門学校の日語教師養成講座は2024年3月末で幕を閉じます。



教師となった修了生の今を追いかけてみます。

35年前に養成講座を修了、その後日本語学科の専任講師として27年。教師になった頃はまだ日本語教育が今のように確立していなかったため、学習者にとって分かりやすい教え方を模索する日々だった。それが後にテキストの出版やボランティア講座、実習講座の立上げに繋がったと思う。現在は養成講座講師7年目。その講座も来年で幕を閉じる。時代の変化を感じる。新しい時代の教師を育てていくことができるだろうか。まだまだ汗まみれの日々は続く。

(岡本 牧子)

# 千里ガレッジセール

2023年10月28日(土)

10月28日。千里恒例のガレッジセールを行いました。これも恒例となった晴天に恵まれ、158名の来場者さんで賑わいました。応援に来てくださった方々との久しぶりのおしゃべりや掘り出し物のコートを嬉しそうに見せてくださるお客様にパンデミックを経験した後での、人との触れ合いの大切さを思い出しました。

(会員 広瀬 圭子)



ちにとつても+αの効用があるようです。皆んなの笑顔を見ながら思いました。皆さんお疲れ様でした。そして、職員お二人のお働きに感謝します。

## 奨学金新設のお知らせ



## ピアノコンサート

2024年1月27日(土) @大阪YWCA千里



財務委員会から、奨学金新設のお知らせです。

会員のお知らせ(仙台在住)が、留学生のために匿名で1千万円を寄付くださいました。ご本人の希望で「仙台宮城野奨学金」という名称になりました。大阪YWCA奨学金、里親の会奨学金、鈴木保奨学金、に加えて4つ目の奨学金、早速後期から支給開始予定です。故郷を離れて日本語を学ぶ留学生の1助になりますように。

## クリスマス献金のお願い

大阪YWCAの活動は、皆さまからのご寄付に支えられています。あなたの寄付が世界の誰かの心に灯をともします。献金は、郵便振替、銀行振込、現金、ネットのいずれかで受けています。

### 9月運営委員会報告

【報告】▼グループパレツト9/10にカラオケで例会を実施 ▼大阪版編集委員会12月号紙面を検討 ▼東日本被災者支援チーム9/3(日) stand by you vol.8 実施 【協議】①YM・YW合同祈禱週集会、役割分担 ②9/9(土)ピースフェスティバル振り返り

### 10月運営委員会報告

【報告】▼女性エンパワメント部12/17(日)ワンフェス for Youthに参加予定 RUSV、インターンシッププログラム共に進行中 ▼梅田会員部留学生へのベジスツープ、9/20提供 【協議】①2/3(土)・4(日)ワンワールド・フェスティバル(於 梅田スカイビル)参加 ②運営委員会改革、ザー ④イスラエルのパレスチナ・ガザ攻撃に対してできる行動について協議

- 【協力ありがとうございます】23/10/1〜23/11/30 敬称略順不同
- 【賛助費】伊藤 景子 大菅 照代 片山 純子 熊田多美子 小島志佐子 関根 久子 辻 朋宏 藤原裕美子 宮澤 玲子 森垣友二郎 山崎久美子 吉田佳代子 積水化学工業株式会社
- 【寄付】梅田 仙台宮城野奨学金 コスモ建物管理株式会社 点字子ども図書室 豊中千里ロータリークラブ
- 千里 池田 洋子
- その他 佐久間早苗 笹部 昌子 日比野栄一
- 【会員維持費】川崎 明恵 野上由紀子
- 【募金】12口 237、463円